

河北潟湖岸の利用を考える集いへのお誘い

2009年6月8日

河北潟自然再生協議会

河北潟の水辺は、野生生物の貴重な生息環境です。湖面には、毎年2万羽のガンカモ類が越冬しています。湖岸のヨシ帯は、石川県指定希少野生動植物のチュウヒをはじめ、オオヨシキリやカイツブリの繁殖場所となっています。またギンブナやコイの産卵場所にもなっています。

水辺の緑と広い水面は、野生動物だけでなく、人々にとっても魅力的な場所です。河北潟は、昔からフナ釣りのメッカです。近年ではバス釣りの人たちが全国から集まります。カヌーの練習やモーターボート教習は以前からおこなわれてきましたが、最近では、水上バイクやウェイクボードなどの水上モータースポーツが増えてきました。アマチュア競艇の練習地にしたいという人たちも出てきました。

あまり知られていませんが、野鳥観察にも全国から多くの人々が訪れています。干拓地がメインですが、湖面の珍鳥をみるために湖岸にも多くの人々がやってきます。野鳥を撮るアマチュアカメラマンも増えています。水辺の野鳥もその対象です。

とても広くみえる河北潟ですが、野生生物にも住みやすく、またさまざまな目的で集う利用者の希望のすべてを満足させるには、河北潟は決して広くありません。河北潟を訪れる人々が自由気ままに河北潟を利用した場合、一番被害を被るのは、もともとの潟の先住者ともいえる野生動物です。彼らが一番弱いからです。次に静かに河北潟を利用してきた地元の人たちです。次は、フナ釣り、その次はカヌー、更にバス釣り、というふうに順番を挙げると、モータースポーツが悪者のようになりますが、彼らも練習場所を探し求め続けた挙げ句、河北潟にたどり着いたのかもしれない。

私たち河北潟自然再生協議会は、河北潟の自然を守り環境を改善するために集まった住民の団体です。広い面積を必要とするレジャーや集中的に環境への不可を与える可能性のある利用には、注意が必要であると考えています。しかし、いまは河北潟の湖面を利用する人たち皆が集まり、野生生物を守りながら、皆が河北潟を利用する術はないのかを考えるとときだと思えます。そのようなうまい方法はないかもしれません。しかし、話し合うことによって解決ができるのは人間だけです。

河北潟の魅力が人を集めました。さまざまな思いや利害もあるかと思いますが、河北潟を守りたいという願いは、河北潟によって集められた人たちの共通の気持ちかと思えます。私たちは、そうした人たちと河北潟の利用を考える集いを企画しました。ぜひこの企画に参加ください。

この呼びかけは、河北潟自然再生協議会事務局を通じて、河北潟の利用者、地域住民、自然保護団体、河北潟に関わる行政機関（国、県、市町）等におこなわれています。

河北潟の湖面利用を考える集い

主 催 河北潟自然再生協議会 （代表世話人：今井敏彦・大浦地区連合町会会長）

日 時 2009年（平成21年）6月27日 午後2：00～4：00

会 場 こなん水辺公園管理学習棟（金沢市東蚊爪町）

内 容 河北潟自然再生協議会よりの趣旨説明
各利用者からの意見
湖面利用のルールづくりについて（参加者による意見交換）

対 象 河北潟の利用者
地域住民
自然保護団体
関係する行政機関

注意事項

参加を希望する湖面利用者の団体は、できるだけ団体単位で意見をまとめてください。またあらかじめ出席の意志を河北潟自然再生協議会事務局までご連絡ください。自然保護団体からも参加も同様をお願い致します。
河北潟を守りながら賢明な利用をはかるという立場からのご参加をお願いします。

連絡先

河北潟自然再生協議会事務局
〒920-0051 金沢市二口町八58
電話 076-261-6951 FAX076-265-3435
（NPO 法人河北潟湖沼研究所気付）
担当 高橋 久